

幼保小の架け橋「幼児教育と小学校教育接続のための協議会」

～担当者部会の実践から～

本協議会は、市内幼児教育・保育施設(87園)と小学校・義務教育学校(34校)で構成し、管理職部会と担当者部会を設けている。さらに、全体組織を5ブロックに分け、連携の効率化を図っている。本年度は、管理職部会を7月に、担当者部会を9月に開催した。

参加者 公立幼：7名、私立幼：3名、公立幼型認可：3名、私立幼型認可：4名、公立連携型認可：2名、公立保：11名、私立保：18名、小学校・義務教育学校：33名
準備 参加人数が多いため、全体を二分し、A・Cブロック9/2、B・D・Eブロック9/28に開催することで、密にならないよう工夫した。
 グループ協議は、同じブロック内で班編成を行い、どのグループにも小学校の担当者、幼児教育・保育の公立施設と民間施設の担当者がそれぞれ入るよう工夫した。

■講 話

講師は、市総合教育研究所幼児教育担当 齊藤 妙 指導主事。講話内容は、「幼保小の架け橋プログラムについて」と「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」である。文科省資料や7月に開催した管理職部会での講師、茨城女子短期大学副学長 助川 公継 先生の講話内容を担当者に紹介し、特に、接続に向けては、小学校側からアプローチするよう強く促した。



■グループ協議

幼児教育から小学校教育への円滑な接続に向けた具体的な取組について協議した。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・このようなことは交流に相当しないと思わずに、互いの施設や子供たちを知ることから始める。
- ・小学校の先生方に、保育や子供の様子を見ていただきたい。
- ・保育所から小学校への授業参観を増やす。
- ・保育者側が小学校を意識した生活や活動を取り入れることができるように小学校の現状把握に努めることが大切。



○ 小学校教員の意見から

- ・授業参観後の話し合いなどはしていないので、実現できたらいいと思う。
- ・小学校の紹介DVDを幼児教育施設に渡し、入学への意欲を高められるようにする。
- ・引継ぎの担当者が変わるなどして情報共有ができていない部分があったため、引継ぎ後、さらに学校で情報を共有していく必要があると感じた。

・昨年度、コロナ禍でできなかったグループ協議が実施できたことで、幼保小接続の必要性を参加者全員がより深く実感することができた。グループ協議では具体的な交流内容や時期について確認する担当者も見受けられた。

・公立の施設及び学校からは、10割近い参加があった。また、民間施設からも4割を超える参加があった。学びの連続性を確保するため、今後も積極的な参加を推進していきたい。

保幼小接続のための連絡協議会

教育長の保幼小接続の重要性の講話から保育者と小学校教員がスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムを持ち寄って実践の成果や課題等を協議する。

参加者 保育者 16名 小学校教員：11名

準備 各幼児教育施設のアプローチカリキュラム、各小・義務教育学校のスタートカリキュラムをグループ協議の人数分準備
教育長への講話依頼、日程確認
各小・義務教育学校学区と幼児教育施設が同じグループになるようなグループ編成

■ 教育長講話 「接続期の教育の重要性」

教育基本法の位置づけ→第11条・・・幼児教育充実
幼児教育施設と小学校の違い
就学前に身に付けさせたい力
小学校に期待すること
→教育は小1から始めるとの思い込み脱却
幼児教育施設に期待すること
→4月からの生活リズムの練習



■ 協議における主な意見

就学に向けて保育者から心配していることの情報交換

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 就学に向けてできていた方がいいこと
- ・ 園で行っているアプローチカリキュラムで力を入れてほしいこと
- ・ 小学校での授業内容や進め方、幼児指導要録の活用について



○ 小学校教員の意見から

- ・ 幼児教育施設に通園・通所するときには、傘をさす機会がないので、雨の日の登校時、昇降口で傘をしまうのに困っている卒園児(1年生)がいる。
- ・ オンラインでの交流をどのようにしていくかを、学区内の幼児教育施設と協議したい。
- ・ フリートークの中で疑問点を話し合ったり確認しあったりしたい。お互いなかなか時間をとって話せる機会が持てないので、とにかく「話したい」。

保育者は、年長児の小学校での姿が気になっているので、小・義務教育学校に学校公開等の予定の案内を送付のお願いした。保育者、小学校教員等両方で情報交換を含めて協議する時間が欲しいという声が聞かれたので、協議時間を十分とれるような日程にする。

「保幼小接続管理職部会」「保幼小接続担当者部会」の開催

～令和4年度テーマ「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」～

幼児教育から小学校教育への円滑な連携・接続と、接続期の教育の更なる充実に向けた取組への一助となるように、令和元年度より、市内各幼児教育施設、小・義務教育学校の管理職を対象にした「保幼小接続管理職部会」と、保幼小連携・接続への取組みを中心になって行っていく担当者を対象にした「保幼小接続担当者部会」を実施しています。令和4年度は「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」をテーマにそれぞれの部会を開催しました。

参加者

【管理職部会】公立幼：4名 私立幼：5名 公立保：4名 民間保：17名 小・義務教育学校：18名

【担当者部会】公立幼：4名 私立幼：7名 公立保：4名 民間保：13名 小・義務教育学校：18名

配慮事項

- 【管理職部会】行事等での連携ができるように、年間行事計画を持参してもらった。さらに、「担当者部会」で担当者同士が詳細を決められるように、日程設定を配慮した。
- 【担当者部会】他園、他校とカリキュラムの交換を行ったり、講義を受けたりしながら、自園、自校のカリキュラムの見直しができるように、接続期のカリキュラムを持参してもらった。

■「管理職部会」「担当者部会」の内容

【管理職部会】

講 話：「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」

講 師：県教育庁総務企画部生涯学習課 就学前教育家庭教育推進室 中庭 朋子 指導主事

情報交換会：中学校区ごとのグループに分かれ、幼児教育施設と小学校とで交流できる行事の確認等を中心に情報交換を行った。

【担当者部会】

講 話：「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」

講 師：茨城女子短期大学 副学長 助川 公継 教授

情報交換会：幼児教育施設と小学校のグループと、幼児教育施設同士、小学校同士のグループでの協議会を2回実施し、子どもの姿に応じた接続期の指導を中心に情報交換を行った。

■「管理職部会」「担当者部会」の協議における主な意見

【管理職部会】

- ・担当に任せただけでなく、管理職も積極的に関わる必要があると感じた。
- ・コロナ禍だからと諦めることなく、どんなことならできるのかという柔軟な考えをもつことが大切だと思う。オンラインを活用すればいろいろなことができるのではないかな。

【担当者部会】

- ・接続期のカリキュラムに対する捉え方や、実際に作成をする際の手順を具体的に伝えてもらうことができて、参考になった。
- ・接続期のカリキュラムの作成はできているが、双方がそれを理解し、活かしあえるような子供への関わり方が必要であると強く感じた。



管理職部会
R 4.7.13.



担当者部会
R 4.7.29.

幼児期に育った力を小学校以降の学びに引き継ぎ、子供たちに系統的な教育を組織的に実施していけるよう、今後もコロナ禍でもできる保幼小連携の取組みを推進すると共に、接続を見通して編成・実施されているカリキュラムを更によりよくしていけるようなサポートを、教育委員会も園や学校と一緒にしていきます。

就学前から小学校、中学校へと切れ目のない支援

～円滑な保幼小の接続～

概要・・・子供たちの適切な配慮や支援を考え保幼小の連携と円滑な接続を図るために、講師を招聘し、学習障害に関する講義とその対応策の協議・検討を行い、課題と支援の共有・連携を図っている。

参加者 公立幼： 2名、公立こ： 1名、私立幼： 2名、私立こ1名
小学校： 33名、中学校： 12名

準備 タブレット

■ 合同研修会の開催

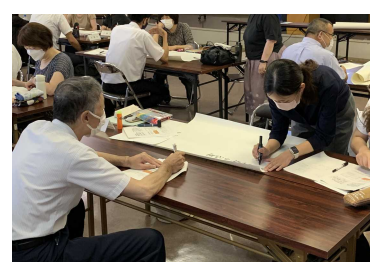
合同研修会に、茨城女子短期大学准教授 梶井 正紀先生を講師としてお招きして講義『学習障害（限局性学習性）の子供の支援を検討して』と事例検討を行った。今回の研修会は、特別支援教育の視点で、子供たち一人一人に必要な支援を考え実践することで、子供たちの不安を少しでも取り除き、小学校につなげていきたいと考えて開催した。

- 本市では、特別な配慮を要する新学齢児数が増加傾向にある。
令和3年度 33名 → 令和4年度 43名
- 子供たちが抱える困難を早期に見取り、把握することができた。
- 本市の実態を伝達し、幼児施設保育者と小中学校教員で共有することができた。

■ 研修会での協議の様子

発達の段階にあわせた事例について、校種ごとにグループで対応策や支援等を協議・検討し、意見交流を行った。

- 事案に対して、幼児教育施設保育者と小中学校教員の視点では、着目する点に違いがあり、よい意見交流の場となった。
- 幼児教育施設保育者の立場からの保育的な要素の支援方法の共有は、有意義であった。



■ アプローチカリキュラムの共有

- 幼稚園・こども園が作成した「アプローチカリキュラム」と「できた！カード」（学年末までに育てておきたい力）等を小学校と共有し、連携を図っている。

まとめ 2年ぶりに合同研修会を開催でき、園と小中学校の先生方との交流の場の設定をすることができた。研修会では、それぞれの現場の子供たちの実態について情報共有しながら、必要な支援を多面的に考えることができ、今後へつながる協議を行うことができた。

保幼小合同研修会の実施

～幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために～

平成30年度に市主催で保幼小合同研修会を開催して以降、一堂に会しての研修会を行うことができなかった。

今年度、県幼児教育アドバイザー派遣による市への支援を受け、保幼小合同研修会を行うことにした。

保幼小の職員が参加しやすいように、夏休みに開催日を設定し、小学校区で少人数での情報交換ができるようにした。

期日	令和4年8月3日(水)
時間	午後1時30分～午後3時30分
場所	小美玉市役所小川支所
参加者	公立幼稚園 6名…3園参加/3園中
	私立保育園 4名…4園/8園
	認定こども園 4名…4園/5園
	小・義務教育学校 7名…7校/7校
	教育委員会(教育指導課・子ども課) 4名
	計25名

* 幼児教育施設で新型コロナウイルス感染関係で、4園9名が欠席。

講話

講師 県幼児教育アドバイザー 茨城キリスト教大学文学部児童教育学科 飛田 隆 教授

テーマ 「幼児教育と小学校教育の相互理解について」

幼児教育における「遊びは学び」の意味、環境を生かした教育等幼児教育について詳しくお話しいただいた。

また、県の接続カリキュラムをもとに、円滑な接続のために重要な点をお話しいただいた。

参加者より

学びの質が違うので、接続カリキュラムの大切さがわかった。

幼児教育の考え方を多くの人に認識・理解してほしい。

「子どもの困っていること」を和らげられるように保幼小の連携が必要だと思った。



協議

保幼小の接続に向けての実践・問題点

小学校区ごとに5グループに分かれ、35分間の協議を行った。



幼児教育施設の保育者の意見

- 小学校や他園の実践を聞き、参考になることがたくさんあった。
- 小学校の先生に幼児教育施設を訪問してほしい。園からも積極的に小学校に働きかけたい。
- コロナ禍でも、できることを考えて、交流・連携に取り組みたい。
- 園同士の横のつながりも大切。

小学校教員の意見

- 小学校入学前の園での生活の様子を知ることができた。
- 幼児のころからの親との読書、お話の読み聞かせの実践はありがたい。
- 担当教員だけでなく、校内全職員で接続に取り組みたい。
- オンライン等を活用して、交流を工夫して行いたい。

まとめ

保幼小の職員が顔を合わせて話し合ったり、講師の先生より指導をうけたりしたことで、接続のために動き出すきっかけになった研修会だった。今後、小学校区ごとに保幼小の職員や子どもの交流等がさらに行われることを期待している。市からも授業公開等の情報を提供していきたい。

「令和4年度茨城町保幼小接続研修会」の実施

～さらなる保幼小の円滑な接続に向けて～

- <期 日> 令和4年8月3日(水)
- <内 容> ① 県幼児教育アドバイザーによる「幼保小の架け橋プログラム」に関する講義
② 令和3年度から導入した「茨城町版小学校入学前サポートシート」の改善
- <工夫点> ① 県幼児教育アドバイザー派遣の活用(講師:茨城女子短期大学助川副学長)
② 園内リーダーと保幼小接続コーディネーターの連携を目指したグループ協議

参加者 公立幼稚園:13名、私立幼児教育施設:6名、小学校:6名、教育委員会:4名

- 準 備**
- ① 事前に用意・連絡しておいたもの
 - ・講義内容及びグループ協議内容の事前周知
 - ・小学校入学前サポートシート導入初年度における提出状況と活用状況の提示
 - ・シート導入初年度の反省に基づく改善点(質問内容、提出時期及び方法)の提案
 - ② 私立幼児教育施設への周知にあたって
 - ・町こども課及び私立幼児教育施設との日常的な連携(全園訪問や保育参観等)
 - ③ 参加者が協議しやすい工夫
 - ・保幼小接続を見据えた協議グループ設定(小学校+小学校区の幼児教育施設)

■ 「幼保小架け橋プログラム」に関する講義

- 参加者の感想から
 - ・就学前教育と小学校教育とでは、ねらいや目標、教育方法などたくさんの違いがあるが、まずは双方で相互理解を深めながら段差を滑らかにしていくことが大切だと改めて感じた。
 - ・架け橋プログラムについて、幼児期に遊び込んだ経験が土台となって小学校での「学び」に繋がることを改めて認識できた。子供たちの「やりたい！」に耳を傾けて保育していきたい。



講師の幼児教育アドバイザー

■ 「茨城町版小学校入学前サポートシート」の改善

- 園内リーダー等の意見から
 - ・回収時期を早め、卒園までのサポートに生かしていきたい。
 - ・全職員で把握することで、保護者の不安を受け止めていきたい。
 - ・提出の強制を求めていなかったため、回収に苦労していた。
 - ・幼児に対する保護者の見方がよく分かるので継続してほしい。
- 保幼小接続コーディネーターの意見から
 - ・子供たちの実態と保護者の捉え方が分かる有効な資料である。
 - ・本年度は「全員提出」の方向性になると非常にありがたい。
 - ・卒園後の引継ぎでサポートシートが活用されるとよい。
 - ・小学校の全職員にサポートシートの研修をぜひ行いたい。



グループ協議の様子

<本実践のまとめ> ○は成果 ◆は今後の取組

- 幼保小の架け橋プログラムが出された背景や意義を保幼小の担当者が理解することができた。
- 全員提出や提出時期の変更など「小学校入学前サポートシート」の改善点が明確になった。
- 保幼小接続の担当者が相互に協議したことで、共通理解を深める貴重な機会となった。
- ◆ 接続カリキュラムの改善を図りながら、計画的に架け橋プログラムの策定を進めていきたい。
- ◆ より有効に「小学校入学前サポートシート」が活用されるよう、周知徹底を図っていきたい。

関係機関が緊密な連携を図り、 相互理解を深めるための合同研修会

大洗町学校教育課・こども課の取組

町内の幼稚園、保育所(園)、小学校、町担当課の関係職員が一堂に会し、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた、「大洗町幼児保育・小学校教育連絡協議会」を3年ぶりに開催した(令和4年8月24日)。臨床心理士による講話、グループ協議を通して、町内各施設の現状を把握するとともに、配慮を要する子供への関わり方等について理解を深めることができた。本町の課題である円滑な接続、特別支援教育への理解促進のための貴重な機会となった。

参加者 公立幼：2名、公立保：2名、私立保：7名、小学校：4名、
こども課：3名、学校教育課：7名、計25名

準備 移動発達相談(こども課・学校教育課による園訪問)で得た幼児、各園の情報
小学校の情報(特別支援学級等の現状、不登校・いじめ等生徒指導にかかわる情報)

■合同研修会について 講話テーマ「発達の気になる子について」

〈 講師：大洗町教育センター 副センター長(臨床心理士) 水口 進 先生 〉

(1) 実施の経緯

コロナ禍以前の本協議会では、接続カリキュラム等に関する研修を実施した。各園・小学校では、この研修の成果を生かし、共通理解のもと、連続性・一貫性のある教育に取り組んでいる。しかし、その一方で小学校入学後に不適応を起こす児童の事例が多く見られ、配慮を要する子供への適切な援助の在り方、特別支援教育への理解促進が課題となっていた。そこで、参集型合同研修の機会を捉え、専門家による講話とグループ協議形式の研修会を企画することとした。

(2) 研修のようす

講話では、ことばの発達やさまざまな障害の特徴などについて触れ、保育者や教師が、日頃、どのように関わったらよいか、具体的事例をもとにご指導いただいた。

グループ協議では、講話の内容を受け、各園、小学校の現状報告ののち、子供との関わり、保護者へのサポートで困っていること等について自由に意見交換を行った。また、講師には各グループの協議に加わっていただき、参加者からの疑問、質問に答える時間を設けた。



■協議における主な意見

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学校の先生からのお話を聞き、園から送り出した子供たちの様子がよく分かった。
- ・どの園も学校も、配慮を要する子供のサポートに苦慮していることが分かった。特別支援に関する研修の機会はあまりないので、大変役に立った。

○小学校教員の意見から

- ・園からの情報は大変貴重である。対面式の研修に参加できてよかった。
- ・この研修をきっかけに、園、学校、町担当課でさらに連携を深められたらいいと思う。

まとめ

○本町の児童生徒が急激に減少する一方で、特別支援教育に対するニーズはますます高まっている。これを踏まえた研修内容であり、参加者からは大変好評であった。今後も、円滑な接続、連続性・一貫性のある教育の実現のために、さまざまなテーマで合同研修会を設定し、関係職員の学び、情報交換の場としたい。

保幼小中接続のための合同研修会

城里町では、幼児教育施設、小学校、中学校の教職員や行政、福祉関係の職員、適応指導教室の指導員で合同研修会を行っています。城里町の子どもたちのよりよい成長を願って、様々な立場で切れ目なく支えていくことができるよう、情報を共有したり、保育・指導法等の研修を行ったりしています。令和4年度は、特別支援学校の先生を講師に迎え、特別支援に関する研修会を実施しました。

参加者 町内全幼児教育施設保育士、小・中学校教諭、適応指導教室指導員、社会福祉協議会、城里町役場福祉こども課、教育委員会指導主事 合計17名

- 準備 (1)各園、学校より提出された事例研究のための資料を集約し、事例の内容や中学校区等によりグルーピングしておく。
 (2)講師の先生と講話の内容についての打ち合わせをし、資料を印刷しておく。
 (3)講師の先生に事例研究でアドバイスをさせていただくため、事前に資料を送付しておく。

＜研修会の実際＞	日時 令和4年8月4日（木） 午後1時30分から午後4時まで			
	会場 コミュニティーセンター城里 3階大会議室			
	講師 茨城県立水戸飯富特別支援学校 特別支援教育コーディネーター	教諭 藁谷 朋子 先生		
	同	教諭 田中 文佳 先生		
【講話】	テーマ 「子どもの育ちを安心して『見守り、つなぐ』ために」	藁谷 朋子 先生		
内容	・ 困り感を体験しましょう ・ 困っているのは・・・ ・ 学級でできる支援 ・ 支援の方法（相談事例） ・ 保護者への支援と対応			
【グループ協議】	事例研究 ・ グループごとに資料を基に協議 ・ 講師より指導助言			
【まとめ】	各幼児教育施設、小・中学校、行政、適応指導教室代表より、協議のまとめや研修会の感想等を発表			



講話 困り感の体験の様子



グループ協議の様子

- ・ 支援を要する子の困り感を実際に体験することで、何がどう困っているのかを理解することができた。言葉で理解するよりも分かりやすかった。
- ・ つながりのある保幼小中の先生方と困り感や指導の仕方について協議ができ、大変参考になり発見があった。
- ・ このような機会は本当に大切だと感じた。城里町の子どもたちのために連携していければと思った。

研修会后アンケートより（一部抜粋）

様々な立場・校種の職員で城里町の子どもたちの切れ目のないよりよい支援について考える機会となった。今回の研修で顔の見える関係性を築けたことが何よりの成果であった。
 ＜保幼小中連携・接続の推進のために・・・研修会後の実践の一部を紹介＞

- ◎相互参観：9月から12月に相互参観日を各幼児教育施設や小・中学校で1～2日間設定。希望するところを参観できるように、教育委員会で企画・調整。
- ◎小学校入学前サポートシートの実施：就学時健康診断で教育委員会より説明し、全ての保護者に依頼。幼児教育施設で回収し、小学校へ引き継ぎ、情報共有。

幼児教育と小学校教育の滑らかな接続のために

～夏季休業中における研修会の実践～

本市では、子どもたちの育ちを大切に、幼児教育施設と小学校の滑らかな接続を重視している。そのため、毎年夏季休業中に幼児教育施設保育者と小学校教員を対象に、幼保小の接続のための研修を実施している。

参加者 公立幼：3名、私立幼：1名、公立こ：1名、私立こ：5名、公立保：8名、
私立保：4名、小学校：23名、中学校：1名

準備 講師依頼、講話の内容の確認等
参加者のとりまとめ
ICT機器の準備、確認等

■ 大学教授による講話 「幼保小の架け橋プログラムとは～幼保小連携接続の効果から～」

本研修会の講師として、大学教授を招き、これまでの幼保小連携接続の効果を振り返るとともに、これからの「架け橋プログラム」への理解を深め、指導力の向上を図ることを目的とし、講話を依頼した。

<講話の3つの柱>

- 1 これまでの幼保小連携接続の効果と課題について
- 2 架け橋プログラムについて
- 3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしたカリキュラムについて

■ 研修会における主な意見

講話後に比較的近接する幼児教育施設と小学校の参加者でグループをつくり、グループ協議・情報交換の時間を設定した。講師から提供された幼児が遊ぶ動画を視聴し、その様子から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見取り、グループで協議を行った。さらに、互いの情報交換を行い、交流を深めた。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学校の先生方と共に、園児が活動し、遊びの中に学びがあるという姿の映像を見ながら学ぶことができてよかった。
- ・普段、話をする機会のない保育園・小学校の先生方と話をするのができ、講話を含めて大変貴重な時間となった。
- ・幼保小の接続に向けて、スムーズに関わり合える関係となるように、コロナ禍でもさらに連携を一步進めたいと思った。

○ 小学校教員の意見から

- ・幼児教育について、遊びの中に学びがあることや、しかけや言葉かけの大切さなど、大変参考になった。
- ・幼保小の連携のための土台となる考え方や実践等について知ることができ、今後小学校で考えていかなければならない課題を知ることができた。
- ・保育園や幼稚園の先生方と話し合いができて有意義だった。近接する園や学校をグループにしていただけよかった。

幼児教育施設保育者と小学校教員が共に幼保小連携接続の研修会に参加することで、幼保小接続の課題を共通で認識し、「架け橋プログラム」への理解を深めることができた。

それぞれの違いを理解し、滑らかな接続をするために、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの見直し等を重視していきたい。

県幼児教育アドバイザーによる 潮来市幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

潮来市は、小学校5校、こども園9園（うち公立認定こども園が1園）である。公立認定こども園は、3つの公立幼児施設を統合再編され、今年3年目となる。子どもの発達段階に応じた育ちと学びを育むためには、保幼小の円滑な接続が大切である。そこで、茨城県幼児教育アドバイザーによる保幼小接続研修会を開催することになった。

参加者 公立こ：2名、私立保：5名、小学校：6名
準備 各園アプローチカリキュラム、各校スタートカリキュラム
 令和4年度年間行事予定

■ 県幼児教育アドバイザー（福田 洋子先生）によるオンライン研修会 「講話 幼児教育と小学校教育の相互理解に向けて」

幼児教育と小学校教育との連携・接続のためには、もとより、2つの教育は仕組みに違いがあるので、その違いは大事にしつつ、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育つ様子を一人一人の子どもに即して共有し、スタートカリキュラムやその先の教育へと発展させながら、教科等の教育へと進めることが大切である。

国からも保幼小の接続については、実質的な話し合いや実践を重視することが述べられている。潮来市のこのような研修を通して、幼児教育施設と小学校教育の先生方の話し合いがこれからも大切になってくる。



■ 小学校区によるグループ協議「潮来市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

- **幼児教育施設保育者の意見から**
 - ・ 友達同士でトラブルになることもあるが、学びのチャンスと捉え、声かけを行っている。
 - ・ 活動がただの遊びとにならないように「ねらい」に沿って活動を行うことが大切である。
 - ・ 子どもの「見取り」について、職員で共通理解が必要である。
- **小学校教員の意見から**
 - ・ 幼児期での経験や学びを小学校で生かすことが大切である。
 - ・ 幼児教育施設の先生方の声かけの仕方が勉強になった。
 - ・ 特別な配慮を要する子どもの情報交換が今後も大切である。

まとめ

潮来市での保幼小の接続については、先生方の理解は進んではいるものの未だ課題がある。このような研修や各学校区での相互授業参観等を通して保幼小の接続がよりスムーズになるように市全体で進めていきたい。

架け橋プログラムに向けた保幼小の交流

小学校及び幼児教育施設において、幼児期の育ちと学びを小学校教育へと円滑に接続する取組の充実に向けて、各園・小学校における架け橋プログラムの具体化の進め方について確認し、小学校、公立・私立の幼児教育施設が混在したグループでの協議を行った。

参加者 公立幼：6名、公立保：1名、公立こ：2名、私立保：12名、市立こ：2名、小学校：14名

準備

- ・3法令や学習指導要領を抜粋した資料
- ・幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）
- ・YouTubeを視聴する環境整備
- ・参加者には、各校での取り組みを話し合えるような準備を依頼

■講話 「 架け橋プログラムについて 」

- ・3法令や学習指導要領における、接続に関する記述の確認
 - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について
 - ・YouTube「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）その3」視聴
- ※幼児期と児童期において、どのような活動が行われているのかを知り、尊重すべき違いを知ったうえで、接続に向けて何ができるか、何をするかを考えていくことを確認した。

■協議 「 各施設での取組について 」

小学校、公立・私立の幼児教育施設が混在したグループにおいて、各施設における取組について話し合い、今後の取組について協議する。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・自己表現をする場や発表の場を工夫したり、協働→まとめ→発表という流れを作ったりすることで小学校での学習につなげていきたい。

○ 小学校教員の意見から

- ・幼児教育施設での指導方法を小学校での指導に活かしていきたい。
- ・オンラインを利用した交流を企画していきたい。

■協議 「 授業参観・保育参観のポイントについて 」

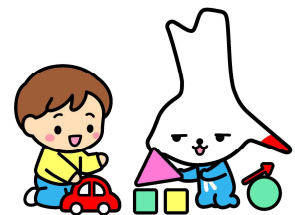
2学期以降に行う相互参観における視点について協議する。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・良くも悪くも子供達の変化を見つけて、小学校の先生に伝えていきたい。
- ・幼児教育施設での遊びがどのように小学校での学びにつながっていくのかを見たい。

○ 小学校教員の意見から

- ・支援が必要な幼児に注目するだけでなく、ひと・ものなどの環境にも注目したい。
- ・子どもの引きつけ方など、指導上の工夫を意識して見たい。



公立・私立の幼児教育施設や小学校が集まり、特別支援に関する話題ではなく、お互いの施設における取組やカリキュラム等について話し合うことができた。今後、各小学校区での協議会においても、カリキュラム等について話し合えるようにしていきたい。

幼児教育施設職員等合同研修会

行方市の幼児教育研修会は私立保育園・私立認定こども園職員も参加できるよう、夏季休業中の土曜日に開催している。本市の幼児教育の課題としている「保幼小の円滑な接続」「評価からの保育改善」について、幼児期の特性を踏まえた教育の推進を図るため、講師を招いての研修会を開催した。

参加者 公立幼12名、私立保6名、私立こ12名、小学校19名、中学校7名、教育支援センター1名、健康増進課4名、こども福祉課2名、市教委8名

準備 こども福祉課と共催で実施し、私立保育園・私立認定こども園への連絡はお願いしている。オンライン研修であったが、当日も、こども福祉課には受付をお願いした。校長会研修会で、この研修会の周知を早くから行い、土曜日開催ではあるが小中学校の教員にも参加していただけるように研修会の参加を呼び掛けた。ICT環境が整わない公立幼稚園は、北浦庁舎で一緒に研修会を受講した。

演題 「学びと育ちをつなぐ保幼小接続の在り方～子ども理解に基づく評価の在り方」

講師 茨城女子短期大学 副学長 助川 公継 先生（茨城県幼児教育アドバイザー）

◆講演会の内容

○幼児期は、「土台づくり」の時期

- ・「遊びこむ」体験から自己調整をする力が育つ
- ・幼児から小学校にかけては、「できること」よりも「やりたいこと」を
- ・幼児期は、伸び伸びとした環境で自己肯定感を育むことを目指す
- ・小学校以降の土台として必要な力を共有する



◆講演会における主な意見（アンケート結果より）

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・円滑な接続には、目的を共有しなければならない
- ・子どもがやりたいという気持ちを大切に育てることが大切である
- ・多くの小中学校の先生に参加していただけたのが、とても良かった

○小中学校教員の意見から

- ・幼児教育について学ぶ機会を得たので、今後の指導に生かしたい
- ・保育参観に行くときの視点が以前よりはっきりとわかった
- ・「やった！できた！」を積み重ね、生徒が自信をもてるようにしたい



架け橋期のプログラムが始まり、特に小学校教員が積極的に研修に臨んでいる。今後の円滑な接続に向けて年間計画の修正に取り組んでいる。今後、幼稚園と保育園、こども園との連携を密にし、小学校との接続を円滑にしていきたい。行方市として、さらに私立保育園、こども園との円滑な接続を目指していきたい。

石岡市保幼小接続担当者等合同研修会（R4.8.3 開催） ～幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために～

石岡市には 22 幼児教育施設及び 19 小学校がある。石岡市における保幼小の円滑な接続を推進するため、保育者と教員による合同研修会を計画・実施した。講師選定は「県幼児教育アドバイザー派遣事業」を活用した。

参加者 公立幼：無、公立保：2名、私立幼・こ・保：14名、小学校：17名
市教育相談室：1名、市職員3名

準備 県幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、決定通知後、講師との事前打ち合わせ
保幼小接続担当課（こども福祉課・教育総務課指導室）との連絡調整（生涯学習課）
市内幼児教育施設及び小学校への周知（生涯学習課）、市教育相談室・石岡特別支援学校への周知（教育総務課指導室）

■ 講話「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために」

【講師：公益社団法人 全国幼児教育研究協会茨城支部 参与 福田 洋子 先生】

当初、対面にて講話及びグループ協議後のご指導をいただく予定であったが、講話のみオンライン（Zoom）となった。

円滑に接続するには、保育者と教員の相互理解を深めることが必要であり、そのために授業参観や保育参観が有効である。遊びや環境をとおして行われる幼児教育の特性を踏まえ、保育参観をする際の「見取る視点」について、具体例（遊びの場面）を交えて分かりやすく教えていただいた。



■ グループ協議「幼児教育施設幼児・小学1年生の現状と今後の交流方法について」

同地区や就学先を考慮した保育者と教員の混合グループにより、協議を行った。（4人×9班）自由闊達に意見が交流できるよう、記録や発表はせず、各自のアンケートに最後に、学んだ成果を記載するようにした。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 入学後の卒園児の頑張っている様子が聞けてよかった。
- ・ 小学校のトイレや給食に戸惑う課題が分かり、事前の学校見学や保護者の協力により、身につけさせたい。
- ・ 小学校でとても工夫されていることが改めて分かった。

○ 小学校教員の意見から

- ・ 各園の幼児教育・保育カリキュラムから就学前の教育がわかり、今後の児童支援に大変参考になった。
- ・ 幼児教育で育まれた力を生かせる指導を心掛けたい。
- ・ 保幼の先生と悩みや情報共有ができた。これを機に連絡を取り合うなど連携を図っていきたい。



講演は急遽オンラインとなったが、保幼小の円滑な接続と相互理解に向けて学ぶことができた。参加者の大半が「小学校（幼児教育施設）の先生と話し合えてとてもよかった。」「今後も機会を設けてほしい」とアンケートに記述し、どのグループも積極的な意見交流の様子が見られた。コロナ禍でもできる交流についても協議し、今後の取組に繋げていきたい。

幼児教育と学校教育を円滑に接続させるための相互理解について

～龍ヶ崎市～

幼児教育と学校教育を円滑に接続するために、幼児教育、学校教育の相互理解を目的とした研修を行った。小学校の教職員対象の研修、幼児教育施設の公開保育参観、そして幼児教育施設が主体となって、学区の小学校職員と幼児教育に関する研修及び情報交換を行った。ここでは、小学校の教職員対象の研修と幼児教育施設が主体となって行われた研修について紹介する。

参加者 小学校：10名

準備・就学前教育・家庭教育推進室と連携を図り視聴覚教材を活用する。

・各学校のスタートカリキュラムを用意し、中学校区ごとに見直しを検討する。

■ 小学校教職員を対象とした研修 「遊びを通しての学ぶ幼児教育への理解」

○ 研修内容（抜粋）

- ・幼児教育の理解について(講義)
- ・視聴覚教材から遊びを通して学ぶ姿について考える。
- ・視聴覚教材から幼児教育と学校教育を円滑に接続していく上で大切なことを考える。(映像の視聴・協議)

○ 参加者のふりかえりから(抜粋)

- ・小学校入学期は、児童がスムーズに活動できるように、遊びの要素を取り入れた活動を企画したい。
- ・1年生入学の時点で、幼児教育施設で学んできたことが沢山あるので、それらを活かせるようにしたい。



参加者 認定こども園職員、学区の小学校職員、教育委員会指導主事、療育施設職員、保健センター職員

準備 広く参加者を募るため、教職員対象の研修時に開催の案内をする。

■ 学区の小学校教員と幼児教育施設の合同研修

○ 合同研修での意見（抜粋）

- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の育みたい資質・能力が学校教育とつながっている。
- ・自分のことは自分でできるようにさせている。入学時でもできることはたくさんある。自信をもって小学校生活を送れるように、できることを小学校と幼児教育施設で共有していくことが大切だと感じた。
- ・入学前の情報共有も大切だが、入学後の情報共有も大切だと感じている。小学校に入学後に気になる子がいたら、いつでも問い合わせて欲しい。



まとめ

今回は特に、「幼児教育施設での学び」について深く研修することができた。小学校で行われている学びが幼児教育での学びとどのようにつながっているか見通した上で、スタートカリキュラムを作成または見直すことが、今後の課題である。

また、幼児教育と学校教育の学びについてよりよく理解するために、小学校教員による保育参観や、保育者の授業参観等が積極的に行われるように働きかけをしていく必要がある。

幼児教育施設と小学校の担当者との合同研修会

○市内幼児教育施設と小学校の交流・連携を目的とし、情報共有・協働の場として「取手市保幼小連絡協議会」を設定、実施した。(年2回：6月、12月)

【主な内容】

- ・「茨城県就学前教育・家庭教育推進アクションプラン」を踏まえた幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修
- ・「令和4年度保幼小接続年間計画シート」の作成・検討
- ・保幼小の交流・連携に関する情報交換

参加者 公立幼：1名、私立幼：11名、公立こ：5名、私立保：5名、小学校：14名
準備 ・「家庭教育応援ナビ」(研修動画視聴を含む)の閲覧・活用についての周知
 ・昨年度の保幼小連携の取組に関する調査

■「令和4年度保幼小接続年間計画シート」の作成

- 中学校区を基本としたグループを編成し、幼児教育施設園内リーダーと小学校保幼小接続コーディネーターが、保幼小交流の取組について情報交換し、今年度の年間計画について検討した。

【各幼児施設と小学校が計画した主な取組】

- ・計画訪問や行事を兼ねた保育参観、授業参観
- ・入学予定園児の小学校見学・体験会
- ・小1国語科「小学校の様子を知らせよう」での学習交流
- ・小2生活科「作って遊ぼう」での学習交流
- ・小1生活科で作ったおもちゃを学区の園児に届ける
- ・小2生活科「町探検」での幼児施設訪問・園児との交流
- ・小学校での生活や学校行事の様子について、児童とともに動画を作成し、学区の幼児教育施設に届ける
- ・アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムに関する合同研修(小学校区)
- ・オンラインによる定期的な保育者と小学校教員の交流研修(小学校区)
- **幼児教育施設保育者の意見から**
 - ・直接交流ができなくても、写真、動画等を介して、学習や生活の様子について交流できることが確認できた。
 - ・他の自治体等の交流の具体例を知り、参考としたい。
- **小学校教員の意見から**
 - ・相互参観等を通して、幼児期の子供の姿を知ることが重要だと感じた。
 - ・カリキュラムの中に、地域の特徴を生かした取組をもっと入れられたら良いと思った。

- ・保育者と小学校教員が、参集し、様々な情報交換を行う中で、幼児期の子供の姿や小学校での学習の様子などを知ることによって、参加した先生方が新たな視点を持ち、日々の指導や支援について振り返ることができた。
- ・保幼小の連携により実施された取組について、どのように共有し、発展させていくかが今後の課題である。

保育者と小学校教員を対象とした保幼小接続の研修

牛久市では令和2年度より「茨城大学教職大学院と連携した幼児教育センター事業」を実施し、保育者と小学校教員への研修・保幼小接続・配慮を要する幼児への支援・保護者支援の4つを主な柱として取り組んでいる。本事業は市内全ての幼児教育施設と小・義務教育学校を対象としており、茨城大学教職大学院の協力を得ながら、保幼小のよりよい連携と円滑な接続を目指している。

参加者

①令和4年度牛久市保幼小合同連絡会

39名〔公保：4名、私保：11名、公幼：3名、私幼：3名、私認こ：3名、小・義：8名、行政：7名〕

②令和4年度牛久市幼児教育センター事業研修会（全4回のうち3回目まで実施済）

（第1回）35名〔公保：5名、私保：11名、公幼：6名、私幼：5名、私認こ：4名、行政：4名〕

*第1回と第4回は幼児教育施設の保育者を対象とした研修のため、小・義務教員の参加はなし。

（第2回）26名〔私保：8名、公幼：2名、私認こ：2名、小・義：8名、行政：6名〕

（第3回）15名〔私保：3名、公幼：3名、私認こ：1名、小・義：4名、行政：4名〕

準備

- 茨城大学教職大学院の協力による専門的な研修と、受講者が学びたいと思う必然性のあるテーマを設定することで、施設類型を問わず保育者や教員の資質・能力の向上を図れるようにする。
- 幼児教育施設の保育者と小・義務教育学校の教員がつながる機会のある研修の流れにする。

■①令和4年度牛久市保幼小合同連絡会（6月）

講演テーマ：「特別な支援が必要な子どもへの配慮・支援と保幼小接続」（講師：茨城大学教職大学院教授）

幼児教育と小学校教育には発達段階に即した「学び方」や「教え方」の違いがある。幼児教育と小学校教育を融合した保育・教育にすることが必要である。また、困難の背景を踏まえた特別な支援を幼・小共通で実践していくことも重要であることを学んだ。

■②令和4年度牛久市幼児教育センター事業研修会（7月・9月・12月）

（第1回）個別の指導計画作成研修①（第2回）保幼小接続 保育実践研修①

（第3回）保幼小接続 保育実践研修②（第4回）個別の指導計画作成研修②

「個別の指導計画作成研修」では、作成方法や困難の背景の捉え方等について確認し、文例集を参考に作成演習をした。作成経験のない保育者や、実践している中で迷いや悩みを抱えていた保育者も、大学院教員からの指導を受けることで、作成することの意義が理解でき、意識が高まった。

「保幼小接続 保育実践研修」では、茨城大学教職大学院生による公立幼稚園での保育実践の様子を、保育者と小学校教員と一緒に参観した。幼児教育の遊びと小学校教育の教科の内容を重ねた実践が、幼児期から学童期の発達段階にある幼児や児童にとって有効だと理解することができた。

■協議における主な意見（グループ協議及び全体での共有）

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・個別の指導計画の作成方法や気になる子への支援が分かり、園でも作成しようと思った。
- ・遊びの中で、保育者が進め方を工夫したり興味のもてるような教材を準備したりすることで、さらに子どもたちも意欲的に参加できるということがよく分かった。

○小学校教員の意見から

- ・子どもたちが、なだらかに発達していくことを意識して、保幼小の学びを融合させる工夫を授業で実践していきたい。

■今後の取り組みについて

保幼小接続の段差を小さくするためには、特に小学校教員が幼児教育についてさらに理解を深める必要があると考える。そこで、小学校区ごとの地区保幼小のつながりを活用した相互参観や研修への参加等、年間を通して学ぶ機会を得るよう促すことで、よりよい接続を目指していきたい。



大学院教授による保育実践の解説と全体共有

つくばみらい市幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

令和3年12月1日（水）に、保幼小接続コーディネーター及び園内リーダー等を対象に、つくばみらい市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進することを目的とした「幼児教育と小学校教育の接続のための研修会」を実施した。

参加者 公立幼：3名、公立保：4名、私立保：6名、私立こ：3名、小学校：10名
準備 持参資料として、各幼児教育施設からアプローチカリキュラム、各小学校からスタートカリキュラム

■協議「アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し～幼→小、小→幼の視点から～」

1 幼児教育と小学校教育の接続について（事務局説明）

- ・幼児教育と小学校教育の特徴
- ・カリキュラム作成の留意点

2 グループ協議

- ・アプローチカリキュラム
→小学校教育の視点から見直す
- ・スタートカリキュラム
→幼児教育の視点から見直す



【自園・自校のカリキュラムについて説明し、見直しをする】



【代表グループによる発表】

■説明「特別支援教育をめぐる連携・接続について」

- ・個別の教育支援計画の作成について
→つくばみらい市版「支援ファイル」の周知と活用依頼
- ・幼児教育施設から小学校への引継ぎについて
→つくばみらい市版「支援ファイル」を活用し、子どもの実態だけではなく、保護者が小学校生活に対して不安に感じていることも引継ぎの内容に加えることを説明



■参加者からの主な感想

○ 幼児教育施設保育者から

- ・小学校の現状を踏まえたアプローチカリキュラムの見直しや、職員間の理解と共有が必要だと思った。
- ・他幼児教育施設のアプローチカリキュラムを参考に自園でも作成していきたい。
- ・接続時だけではなく、継続して子どもの成長を見守っていける仕組みが重要であると感じた。

○ 小学校教員から

- ・アプローチカリキュラムを見ると、幼児教育施設では学校生活で必要なことを身に付ける活動を行っていることが分かった。
- ・幼児教育施設との連携は大切であることを改めて感じた。
- ・支援ファイルを使った配慮を要する子についての共通理解を図ることが重要だと感じた。

本研修会実施により、小学校へのつながりを意識したアプローチカリキュラムや幼児教育での育ちを踏まえたスタートカリキュラムの作成や見直しへの意識が高まり、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携につなげることができた。今後も、保育者と教員が共に協議したり情報交換したりする機会を設定し、市の幼児教育と小学校教育の接続・連携を図っていきたい。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組

■ 保幼小接続についての状況確認アンケート

対象：小学校（保幼小接続コーディネーター）

準備：1人1台端末の Teams に「保幼小接続コーディネーター」のチームを作成。Teams に入り Forms で作成したアンケートに答えてもらう。項目は、スタート・カリキュラムについて、教育施設との連携について、令和3年度の反省や課題についてなど。

時期：1月

結果：令和3年度の取り組み状況を把握するのに使用した。入力後、集計結果を確認することができるので、他校の接続状況も見ることができる。

積極的に交流をしている小学校と交流のない小学校の差があることが分かった。また、交流内容についても、直接交流（行事の参加や授業の参観）や間接交流（手紙やビデオレター）など様々であった。

■ 架け橋タイム（幼稚園と小学校の情報交換）

対象：公立幼稚園、就学先の小学校1年生担任

準備：小学校に対話の時間をもつことの確認、幼稚園から小学校への依頼文書の作成

時期：7月

結果：今回の対象小学校は3校であったが、一度に集まることができなかったので、2回に分けて行った。幼稚園は、気になる卒園児の様子を聞き、幼稚園でやっていたことをアドバイスすることができた。小学校では、困っている児童について園からの情報を得ることができたり、幼稚園で行っていた取組を知ることができたりし、お互いに有意義な時間になった。



■ 常総市保幼小合同研修会

対象：市内幼児教育施設、小学校

準備：講師依頼（県アドバイザー派遣の申請）、場所の確保

時期：8月から10月に延期(コロナウイルス感染拡大防止のため)

内容：講話、近くの小学校ごとにグループ分けし、グループ協議（アプローチ・スタートカリキュラムについて、今後の交流の設定、情報交換等）



成果と今後の課題

- ・ Form のアンケート機能を使うことで、参集する時間を取らずに、取組を知ることができた。
- ・ 架け橋タイムを他の地区にも広めていきたい。オンラインも活用したいが、幼児教育施設には使用できる端末がないところもあり、難しい。

境町幼児教育と小学校教育の接続委員会

～組織的な研修に関する実践～

概要

- ・ 学びの基礎力を培う大切な時期である幼児期から児童期にかけて、互いの教育を見通し、連続性・一貫性のある教育を行う必要がある。そこで、保幼小の連携を進め、接続カリキュラムによる円滑な接続を行うために組織された委員会における年度始めの推進委員会を開催。本年度の計画と研究協議を実施。

- 参加者** 私立保育園：4園4名、私立認定こども園：5園6名
 小学校：5校5名
 境町役場：子ども未来課1名
 学校教育課：指導主事2名、学校教育指導員1名、教育相談員1名
 生涯学習課：社会教育主事1名

■ 本年度の事業計画の確認

- 推進委員会
 - ・ 1回目～5月19日(木)：計画と実践の在り方(方向性) 接続期に育って欲しい子供の姿を見据えて
 - ・ 2回目～11月29日(火) 実践途中経過の協議 ※合同研修会を兼ねる
 - アプローチ・スタートカリキュラムの実践と改善の実施
 - ・ 幼児教育施設～アプローチ・カリキュラム
 - ・ 小学校～スタート・カリキュラム
 - 授業と保育の相互参観及び協議の実施
 - ・ 教育課程及び保育過程の見直し、指導内容等の充実を図る
 - ・ 交流、情報交換～工夫しさらなる連携 ※コロナ禍でもできることを
- 【授業と保育の相互参観】
- ・ テーマ：保幼と小学校で育てたい子どもの姿と情報共有の在り方
 - ・ 小学校授業参観、幼児教育施設保育参観



■ ミニ研究協議～小グループで情報交換～

- 協議①～カリキュラムを振り返ろう
 - ・ 実践した成果と課題
 - ・ 年度末に取り組みたいこと
 - ・ 幼児教育施設・小学校に伝えたいこと
 - ※ 「よかったこと・続けていきたいこと」 「問題があり改善が必要な事は何か」 「新しく取り組むこと」を視点に協議・情報交換
- 協議②～8月までに実践可能な取組を検討しよう
 - ・ 入学後新入生情報交換
 - ・ 保育参観、授業参観
 - ・ 保育と授業交換体験
 - ・ 接続カリキュラムの実践
 - ・ 幼児と児童の交流 [お店屋さんごっこ、生活科発表会、おもちゃのプレゼントなど]
 - ・ 園内研修、校内研修による共通理解



国の幼保小架け橋プログラム事業、本年度の県、境町の取組について確認をし、コロナ禍でもできることを実践し、接続、連携を止めないことを共通理解をすることができた。

ミニ研究協議では、小グループのメンバーを変え、幼児教育施設と小学校を交えた情報交換を行い、園児の質の高い遊びをとおした学びについて理解を深めることができた。